

国語 第3学年 【じょうほう】引用するとき 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す。学習の記録は、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)ウ	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。

単元の目標

引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ）

他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全3時間（知・技1、書2）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 紹介する目的と言葉の出典を確認める。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○紹介する目的と言葉の出典を確認める。自分の経験との関係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」 【めあて】他の文章から借りた言葉と自分の説明を区別し、出典を示す。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」 紹介する目的と言葉の出典を確かめる。自分の経験との関係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知りたい。 ・紹介する言葉と自分の意見を分けたい。 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。 想定する難しさ：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。 評価では、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「自分が考えたことと、資料の言葉はどこで区別できますか」。中央は、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。この難しさには、学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。評価では、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」85行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

